様式第１号

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	平成 28 年度
１次評価日（主幹等）	29 年 3 月 31 日
２次評価日（課長等）	29 年 3 月 31 日

1 事業名	体験工房管理事業	コード	111116

2 担当部課	部等	産業振興部	課等	ブランド推進室	作成者	小林　隆

3 事業概要				
目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち		
	政　策	文化・スポーツの振興	施　策	文化・芸術の振興
	予算科目	体験工房運営事業費	業務委託	なし（直営）
	実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
	根拠法令	なし（選択的事業）		

●事業の内容（DO）

4 事業の概要等

＊対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）

事業の概要（簡潔に）		繭の質感や特性を活かしながら、オリジナルのまゆ人形等の作品を制作することにより、岡谷らしさを感じさせる体験の場を提供する。
目的	対象者	市民及び来館者
	意　図	シルク岡谷の歴史の継承、岡谷ブランドの発信

5 事業の実施内容

＊28年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容

　まゆちゃん工房では随時体験者を受け入れ、オリジナルまゆ人形やコサージュ作り、簡易な機織りの体験を実施。　季節や展示に関連したまゆ人形作りを体験できるワークショップを開催している。

・まゆ人形作り等ワークショップ：計15回
・まゆ人形作り出前講座：計6回
・まゆちゃん工房：まゆ人形体験　1,011人、簡易機織り41人
・団体ワークショップ：計9回　延べ88人

前年度の課題への対応	・繁忙期など体験希望者を待たせることがないよう職員体制などにより対応した。 ・まゆ人形のパーツ製作の一部を外部に委託する等の工夫をした。

6 指標の達成状況

＊活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度

区　分	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
① 活動指標（指標名）	まゆ人形ワークショップ、出前講座の開催日数			単位：日
実績値	24	30	30	
＊指標の説明				
② 成果指標（指標名）	まゆ人形ワークショップ、出前講座の開催日数			単位：
目標値	24	24	30	30
実績値	24	30	30	
達成度	100.0%	125.0%	100.0%	
＊指標の説明	まゆ人形ワークショップ、出前講座の開催日数			
＊目標値の設定方法の説明	過去3年間の最大値			

7 ア）コストの推移

＊この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）　［単位：円］

補助金負担金名	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
① 直接事業費	229,132	286,640	200,209	293,000
経常経費	229,132	286,640	200,209	293,000
臨時的経費				
＊臨時的経費の説明				

補助金負担金名	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
② 人件費	1,280,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
正規職員の人数（人）	0.16	0.15	0.15	0.15
③ 合計コスト（①＋②）	1,509,132	1,486,640	1,400,209	1,493,000
前年度比		98.5%	94.2%	106.6%
財源内訳 一般財源	1,509,132	1,486,640	1,400,209	1,493,000
財源内訳 特定財源				
＊特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	62,881	49,555	46,674	
前年度比		78.8%	94.2%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ）補助金負担金の状況

［単位：件、円、%］

補助金負担金名		26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア）の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0	0
	割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

＊行が足りない場合は追加してください

●事業の評価（CHECK）

8 妥当性評価

＊妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。　**妥当性　高い**

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与するべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、ＮＰＯ、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、ＮＰＯ、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

＊有効性＝成果指標（項目7／住民の満足度）は向上しているか。　**有効性　高い**

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。　成果指標の実績値　前年度比　100.0%	1	
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。　成果指標の目標値　達成度　100.0%	1	

●改善の内容（ACTION）

10 具体的な課題と改善

課題	（少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること） まゆ人形体験等、随時受付けているため、繁忙期に体験希望者が集中することから、待ち時間やスペース不足等が発生してしまう。
改善方法	（上記の課題をふまえて29年度以降に実施する、具体的な改善の内容） ・博物館受付業務委託先との交渉により、繁忙期等のサポートやパーツ作りに協力いただける契約とすることにより改善を図る。
改善開始時期	平成29年4月

●次年度の計画（PLAN）

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による29年度の優先度 *H27年度施策評価表より転記すること	B